

THE
NAWay
MAGAZINE

「世界中で読まれているNAの定期刊行物」



2017年1月発行 第34号 / 1号



・ 悲しみにくれる

・ 『[ガイドイング・プリンシプルス](#)』

・ いたるところに仲間がいる



世界中で 読まれている NAの定期行物

NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマスのメンバーのための雑誌であるため、英語、ベルシヤ語、フランス語、ドイツ語、ポルトガル語、スペイン語など、さまざまな言語で出版されている。そしてこの雑誌の使命は、ひとりひとりのメンバーに回復とサービスに関する情報を提供することであり、そこには回復にまつわる喜びだけでなく、現在NAで問題となっていることや世界中のNAメンバーのだれにとっても見過ごせないイベントなども取り上げている。編集スタッフはこのような使命に従い、世界中のメンバーが特集記事をはじめとするさまざまな記事を書いて、自由に載せられる雑誌にしようとするのはもちろん、現在行われているサービスやコンベンションに関する情報を提供することにも力を注いでいる。だが、これが定期的にメンバーに届く雑誌であるからには何よりもまず、『アディクトであれば、どんなアディクトであっても、薬物を使うのをやめることができ、使いたいという欲求も消え、新しい生き方を見いだすことができる』というNAの回復のメッセージをたたえることにこそ力を注ぐ

NA World Services, Inc.
PO Box 9999
Van Nuys, CA 91409 USA
Telephone: (818) 773-9999
Fax: (818) 700-0700
Website: www.na.org

NA Way マガジンでは、読者のみなさんが参加されるのを待ちしている。この年に4回発行される定期行物によって、ぜひ、世界中の仲間たちと分かち合いをしていただきたい。回復するなかでの経験はもちろんのこと、NAのさまざまなことに関する意見や、これからの課題などについても投稿をお待ちしている。ただし、投稿された原稿はどれもみな、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社に所有権があるものとされる。購読の予約、編集に対する意見のほか、著作権など実務的なことでの相談は、PO BOX 9999, Van Nuys, CA 91409-9099 にお問い合わせいただきたい。

NA Way マガジンは、NAメンバーがそれぞれに自分で経験したことや自分なりの意見を紹介する雑誌である。ここにはNA全体の意見は表明されていない。そしてもちろん、ナルコティクス アノニマス、NA Way マガジンまたはナルコティクス アノニマス ワールドサービス社によって支持されていると受け取れるような記事も掲載されてはいない。また、インターネットからNAWayマガジンを配信することを希望する場合には、上記のアドレスに手紙をいただくか、naway@na.orgにeメールをいただきたい。

NA Way マガジン (The NA Way Magazine : ISSN 1046-5421)、NA Way (The NA Way)、ナルコティクス アノニマス (Narcotics Anonymous)、この3つは、ナルコティクスアノニマスワールドサービス社のトレードマークとして商標登録されている。NA Way マガジンは、ナルコティクス アノニマス ワールドサービス社 (19737 Nordhoff Place, Chatsworth, CA 91311) によって、年に4回発行される。

編集者から、ひとこと

現実を受けとめて生きるという考えは、わたしたちにとってすごく大事なものだ。このため、『ベーシックテキスト』にある個人の物語は大部分がこの考えにもとづいて書かれている。そして、ミーティングでも、スポンサーシップでも、NAの文献でも、ふとしたときにこの言い回しが登場する。そうして引き合いに出されるたびに、使っているアディクトでいたら現実を受けとめて生きることはできないのだと、わたしたちは再確認する。けれども、わたしたちが回復の道を歩みながら現実と直面し、あるがままに受け入れて生きる努力をし、成長していくと、この言い回しはまったく新しい一面をもつようになる。

『ベーシックテキスト』の個人の物語のなかで、ある仲間は「現実の人生って、奇跡に満ちているのよ」と言っている。そして今月号では、ギリシャのメンバーたちがしつかりしたホームグループをつくるために数々の困難を克服しているし、あるメンバーは4番目のステップに取り組みながら大きな教訓をいくつも学んでいる。だが、あえていうなら、現実を受けとめて生きることは回復の過程と同じく、厄介なものになることが多い。現実の人生は、わたしたちを混乱させ、へこませ、がんじがらめにする。わたしたちは回復の道を歩みながら苦勞して大人になっていく際に、人生の荒波にもまれて耐え忍ぶことになるかもしれないのだ。今月号にも、そうやって苦勞しながらうまく乗り越えてきたことを伝えようとするメンバーたちから、さまざまな物語が寄せられている。

「アディクションから回復するということは、ただ薬物を使わなくなるというだけのことではない。クリーンにとどまりながら、私たちは数々の困難に直面することでさまざまな贈り物に恵まれるのだ」(『ベーシックテキスト』、「生きるということ」)

ド・J (エディター)

今月号の掲載記事

特集記事	3	フェローシップ ディベロップメント	12
・生きていくということ		・ CANA/ACNA	
ベーシック・キャプション・コンテスト	4	・ ハワイリージョン ラーニングデイ	
わかちあい	5	・ マルチゾーナル サービス シンポジウム	
・ 悲しみにくれる		・ ウェスタン サービスラーニングデイ	
・ 4番目のステップ		・ NAフィリピン	
・ 精神の目覚め		グループ紹介	16
・ MZSS: サービスにかぎらない収穫		Calendar	17
・ ままならない人生の旅		NAWS Product Update	18
ガイディング・プリンシプルズ:		Coming Soon	20
ザ・スピリット・オブ・アウェア・トラディションズ	8		
#weareeverywhere(世界共通のマーク)	9		

電子購読者はここをクリックして追加のコンテンツを見ることができます

表紙の写真: カイル・P (アメリカ合衆国/ミネソタ)

NA Way マガジンでは、読者のみなさんからののお便りをお待ちしている。掲載された記事に対する感想はもちろん、NAという集まりのなかで取り上げられている問題についてひとつの考え方を示すにすぎないものであっても、エディター宛に送っていただきたい。250字以内にまとまっていれば、そのまま編集の手を加えずに掲載されることになっている。お便りには、本名、現在使われている住所および電話番号を明記することをお忘れなく。掲載される場合には、アノニマスでという希望がないかぎり、ファーストネームと苗字のイニシャルを署名として用いることになる。

生きていくということ

俺は40年のクリーンタイムにあと40日ちょっとというところで、これを書いている。40年は、長い。それだけの時間があれば、薬物と縁を切ったときの自分とはいろんな面で大きく変わる。心と精神は、もはや小さな堅い殻に閉じこもってはおらず、すなおに新たな可能性に挑戦しようという気持ちになっている。実際に、俺はもうこの世界を敵に回して孤立することなどないってことが、いちばん大きな変化だろう。

とはいっても、俺の暮らし向きは過酷なものだ。シェルター〔ホームレスの一時避難所〕があるにもかかわらず、ここ8ヶ月は宿無しの状態だった。この間ずっと毎日、夜は4つの職場のどれかで臨時雇いとして深夜勤務をこなした。おかげで、俺は社会からもNAからもすっかり忘れられた存在となってしまう。もう一度ホームグループに参加するようになったのは、ほんの1ヶ月半ほど前のことだ。毎週ミーティングに出るためには、睡眠と金を犠牲にした。どっちも、俺にはどうしても譲れないってものでもないからな。大変だろうって？ そりゃそうさ。だが、耐えられないってわけじゃない。生きていくということは、ときに厳しく、過酷ですらある。長生きすればそのぐらいのことはわかるし、これだけクリーンタイムを重ねればそうした現実を受けいれるのもわけはない。なぜかって、どうみても「自分には変えられない」ことだってわかるからだ。

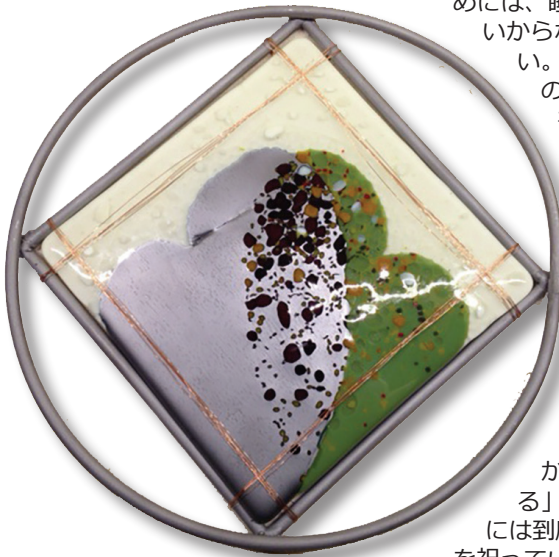
だからこそ、俺は（自分のことが）つくづく恥ずかしくて苛立ちがつづくる。俺はいつまでたっても、世の中をうまく渡れないままだ。とくに、金のことでは苦勞する。俺は遺産を食いつぶし、積立の貯蓄を現金化したあげく、今は最低賃金を少し上回るだけの稼ぎしかない。家計は火の車だが、そうなったのも自業自得。自分のことをよく知って厳しく鍛えることもできたのに、機会を無駄にした。こんなに長くクリーンでいてもなお、財政的にはなんら変わっていない。いうまでもなく、環境じゃなくて自分が変わらないからだ。俺は、恥ずかしくてたまらない。

とまあ、クリーンになって40年目を迎えることを考えると、俺だっていろいろと進歩したじゃないかという声がある一方で、失敗だらけじゃないかと怒鳴る声がある。この状況を指して、俺は「何が何でもクリーンにとどまる」お手本だと、仲間たちは言ってくれる。だが、俺は「なれるはずだった自分には到底なれなかった」という見本なんだ。果たして、こんな自分がクリーンタイムを祝っていいものやら、疑問だった。このまま、40年という節目を迎える努力をすべきなのかどうかすらも、疑問だった。いっそのことリラプスしてしまうか。それよりもっと思い切った行動にうつってでるか。そんな考えが頭をよぎり、せっぱつまって、そうせずつづいてはられない気持ちになった。それでもなんとか、クリーンにとどまった。俺が自暴自棄にならないのは、どうしてなのか？

- クリーンタイム：今日一日をクリーンにとどまる習慣によって「今日」は何千日となる。
- NAの文献：「ミーティングに出る回数をもう一回増やし、…新しい仲間がクリーンでいられる手助けをもう一日してみる」*
- 仲間の存在：NAに30年以上いて俺のことをよく知っているメンバーたちから、つながって30日を過ぎて顔見知りになりつつあるメンバーたちまで、さまざまな仲間がいる。
- サービス：善行をしていれば、目的を見失うことはない。
- 12のステップ：毎日ではないし、一日置きともいえないが、まったく取り組まない日はない。
- NAミーティング：好きなミーティングもあれば、気に入らないミーティングもある。遅れていくこともあれば、早く帰ることもある。2週間に1回であったり、週に4回であったり。それでも通うのが、NAのミーティングだ。
- NAの精神：NAという仲間の集まり。まさに初めてつながったときから、一日、一日、強さと安らぎをもたらすものになっている。

だから今は、今日だけ、クリーンで14,610日を迎えるためにやるべきことをやるつもりだ。どうなるか、楽しみにしよう。

アル・H (アメリカ合衆国/ニュージャージー)



アート作品：アマンダ・M

(アメリカ合衆国/ネブラスカ)

* ベーシックテキスト、「さらなる大きな気づきへ」

ベーシック・キャプション コンテスト

ここに、みなさんがNA Wayマガジンに参加できる新企画をご用意しました。左にあるコミックのキャプションを書いて送っていただくだけで、そのままキャプション・コンテストに参加できてしまうのです。みなさんのキャプションから傑作と思えるもの（1点とは限らないかもしれませんが）を選んで、次回のNA Wayマガジンに掲載させていただきます。そうやってNA Wayに名前が載るというのも、なかなかいいものではないでしょうか。

申し込みは、Eメールで受けつけています。宛先は naway@na.org。件名は「ベーシックキャプション・コンテスト」とし、本文には名前と住所を必ず記入するようにお願いします。



撮影者： イレーネ・C
(アイルランド/ウェストミース)

The NA Way マガジン
NAWS ニュース
リーチングアウト
EメールによるNAWS最新情報
今日だけ
毎日のEメール配信

インターネット版の予約購読：
印刷費ゼロ
郵送費ゼロ
そのままEメール配信されます。

みなさんが作る NA Wayマガジン

NAで回復の道を歩むなかでみなさんが経験したことを、NA Wayマガジンでわかちあいましょう。体験談、NAでみられる事柄に関する意見、写真、回復に関する自作のアート作品など、手段はいくらでもあります。このほか、みなさんのNAで発行しているニュースレターも歓迎しています。いずれも電子文書（テキスト文書をはじめ、jpg, gif, pdf, など）にして、naway@na.orgへ送信されるようにお願いします。投稿や著作権譲渡に関して詳しいことを知るには、www.naway.org をご覧ください。

悲しみにくれる

わたしには16年4ヶ月のあいだ連れ添った夫がいました。その最愛の夫が、2015年の3月に悪性で浸潤性のガンと診断されたのです。4月の終わりに手術を受け、その後のPETスキャンによってガンはと取り除かれたと告げられました。でも、予防治療を受けるようになると吐き気がしてほとんど何も食べられなくなってしまい、好物も口にするのが耐えられないのでした。このため、わたしたちはサプリメントを試してみることにしました。夫は、体重が減って元気がなかったけれど、希望は失っていませんでした。その前向きさにわたしも感化されたことと、PETスキャンに先立つ30日間にわたしは毎日3番目のステップに取り組んでいたこともあって、何もかもうまくいくことを信じようという気持ちになりました。

しかし、ハイヤーパワーの考えはちがっていました。わたしが乞い願ったことは、ハイヤーパワーの念頭にはなかったのです。ガンの専門医による精密検査、再手術、そして何度かのスキャンを経た結果、予防治療の甲斐もなくガンが広がっていることがわかりました。それで一連の化学療法を1回受けたのですが、痛みは増すばかりでした。

それでも、わたしたちは希望を捨てませんでした。夫は、ベーシックテキストと『リビングクリーン』を一言一句もらさず読みました。わたしたちは祈り、死について話しました。話しがお互いの恐れになると、夫は死に対する恐怖にも増して、自分がいなくなってわたしが生きていけるのかと心配でたまらないようでした。そうやって話し合ったにもかかわらず、わたしはまったく現実を認めようとはしていなかったのだと、今になってわかります。

そして、夫は亡くなりました。その5日前には2回目の化学療法を受けることになっていたのですが、ガンの専門医は夫の検査結果をみて、化学療法を取りやめると告げたのです。もう手の施しようがないということでした。それで夫は希望と前向きな気持ちを失い、死んでしまったのです。

わたしは内臓がズタズタに引き裂かれるような痛みを感じつつも、これでもう愛するひとが苦しみや痛みを苛まれることはないし、あとはハイヤーパワーにおまかせしておけばいいのだと、内心ほっとする気持ちがありました。それから何週間かして夫が死んだショックが薄らいできると、ハイヤーパワーの意志を疑い始めたのですが、答えを見つけることはできませんでした。夫はもう戻ってこないという現実を受け入れるには自分の意思を放棄するしかないし、それがいやなら夫の死は受け入れられないと、どうどうめぐりするばかりでした。

1年を2ヶ月ほど過ぎた今もなお、わたしは現実と折り合いがつけられませんが、ゆっくりと自信を取り戻しつつはありますが、夫のことが恋しくてたまらないのです。

夫の死後、わたしはスポンサーを変えたので、新しい関係を築きながら信頼することを学びなおせるようになってきました。そして、スポンサーたちの手助けもつづけました。他の人たちに尽くすことは一時的ではあっても、夫を恋しく思う気持ちから自分をひきはなすのに役立ちました。ミーティングにも毎週のように通いつづけ、夫が亡くなった直後の2、3ヶ月は週に3回以上出席しました。仲間たちの存在が支えとなってきたといっているでしょう。ただ、多くの仲間がわたしたちを夫婦として知っていたので、わたしに対してなんと言っているかわからず、気まずさと戸惑いからわたしを避けていたように思え、それは今でも変わりません。みんなも悲しみに暮れているのですが、遠まきにされていたという現実



撮影者：ハイメ・V
エタニティ・メダリオン

つらいものです。

夫が死んでから、わたしにはできなくなってしまったことがたくさんあって、書く習慣を取り戻すこともそのひとつです。わたしは物書きではありませんが、ステップについて書くことを中断したまま、日記を書くこともできなくなっていました。ですから、こうしてNA Wayに投稿することによって、自分がいま抱えている思いや、ここ数ヶ月にわたって抱いてきた思いを少しでも表現できれば、文章にすることに尻込みしているわたしも一歩踏み出せるのではないかなと思うのです。

わたしは夫が生きていた頃には働く気などなかったのに、今は仕事があることを幸せだと思い、毎日、毎分、目の前のことに集中して最善を尽くしています。そうして、まるでNAにつながったところのように人生の再構築をしているわけです。一日、一日とね。

シュリル・B
(南アフリカ/ヨハネスブルグ)

第4ステップ

あたしは2003年にはじめて、4番目のステップについて書くという作業にとりかかった。固まっちゃったのを覚えているわ。気の遠くなる作業に思えたのよ。正直いって、今となっては書き終えていたかどうかわかんない。でも、スポンサーと一緒に読み合わせすることはなかったでしょうね。だって、あたしはリラクスしちゃったんだもの。それでもこうして、ハイヤーパワーの恵みによってNAに戻ってこれたから、自分の棚卸をしてスポンサーと一緒に4番目のステップを終わらせることができる。

今回は、NAの『ステップワーキングガイド』をもとにして書くつもり。恨みの項目になるとついページを次々とめくってしまう(だれが助かったのかとか、結末が知りたくて、本の最終章を読もうとするようなものね)。ワークブックの見出しが目に飛び込んでくる。感情、罪の意識、恥、恐れ、恋愛関係、セックス、虐待。パニックと不安について話せてことじゃない! 心臓がドキドキしてきて、身体がほてり、汗びっしょりになってしまった。あたしは息も絶え絶えで本を伏せ、それっきり3週間触らなかつた。ようやくそのことをスポンサーにうちあげたら、なんて言われたと思う? 「そんなことしてないで、毎日の仕事みたいにひとつひとつの質問に答えなさい。一日に一回、一度にひとつずつやるのよ!」 なんだ、そういうことだったのか。だから、ちゃんと順番どおりに質問に答えていけば、それぞれのテーマに取り組むうちに、前の項目で自分が書いたことによってあたしは心の準備ができるようになるんだって、スポンサーは言った。それではと、あたしは導きを求めて祈ってから、ワークブックと自分のノートを開い

てとりかかっていった。

ひとつの段落に、すっかり目が釘付けになった。『ベーシックテキスト』の第4章「どうすればうまくいくのか」でステップ4について論じたものだ。「過去の行動と現在の行動を見直し、残しておきたいものと、捨てたいものを見分けていく。みじめにいたければそれでもいい。だれも無理に捨てるとはいっていない。よく、ステップ4は大変だと言われているが、実際にはごくシンプルなものだ」つまり、あたしはもうこれまでのような人間でいる必要はないってことよ。あたしは自分の良いところを見つけて大きく伸ばしていき、悪いところは捨ててしまうことだってできるんだ。それはつまり、あたしは過去に生きる必要はないということでもある。過去のこと、文章に表してスポンサーと一緒に検討してから手放せばいいんだもの。これって、2番目のステップにそっくりだわ。あたしはステップ2によって、ハイヤーパワーがどういう存在であってほしいか決められるってことだから。こんなふうに、このプログラムは使いまくっていたときには絶対に手にできなかった選択肢を与えてくれる。あたしは惨めになるか、問題を解決して生きるか、選択することができる。なりたいたい人間にならないことも、これまでよりマシン人間になることも。だから、あたしは心の奥底にある暗く忌まわしい記憶をずっと掘り下げていく。でも闇が深すぎたら、あたしは『ベーシックテキスト』を取り出して

もう一回、

言ってみよう。

あたしは悪人じゃない。

あの文章をもう一度読む。すると、またあの光明のなかに引き戻してもらえするというわけ。

あたしは自分を注目的にするのが得意中の得意。わざと、人にいいところを見せようとするのよ。そんなのカッコ悪いことなのにね。だから、この事実を認めて、ちょっとでも行動を変えようと努力するのが謙虚になるってことなんだわ。あたしは別人になる必要などないけど、変わりたいと思うところがいくつもある。今の自分が、こうありたいと思う人間ではないからよ。棚卸表を書いて自分のしてきたことを見つめることによって、自分の性格の欠点と長所がいくつか示される。あたしは悪人じゃないってこともわかる。やった! もう一回、言ってみよう。あたしは悪人じゃない。

あたしは、どうしても恐れを手放せないでいるけれども、恐れを抱くのはフツフツなだけということを学びつつある。あたしは恐れてもいいんだ。恐れは、あたしが(みんなが)生まれもった防衛の仕

組みだもの。でも、だからといって、もう恐れで麻痺してばかりはいられない。何をするにもしないにも、恐れに自分の判断や行動を支配されてはいけない。あたしは自分が何かを怖がっていると認めることができると、それだけに終わらせず、自分が恐れに無力であることを認め、恐れることを許し、ハイヤーパワーが恐れを乗り越えさせてくれると信じることもできるのだ。

自分の欠点とともに良いところも評価できることは、素晴らしい贈り物だから大切にしているわ。このプログラムは、まったく、素晴らしいなんてものじゃない。本気で生きようとしていると、自分の能力を最大限に引き出してくれるんだもの。あたしはもう過去に生きる必要はない。過去から目を背けたり、過去をごまかしたり、過去を偽ったりする必要はない。あたしは過去を認め、正視して、素直に認めることができる。だから、仲間たちとハイヤーパワーのおかげで、いままでよりマシン人間として前に進んでいけるのよ。

ウェンディ・W
(アメリカ合衆国/バージニア)

精神の目覚め

僕にスピリチュアルな目覚めが訪れたのは、12月の20日のことだった。通りを歩いていたとき、心底から自分のことを好きだって思えたんだ。不思議だった。どういうことか、見当もつかなかった。

それから2、3ヶ月して、僕はふたたび自分の幸せを意識するようになった。今度は電車に乗っているときに、前と同じような幸福感を覚えた。そのとき、これは何かの兆しかもしれないと気づいた。家に帰ってNAの文献を調べると、スピリチュアルな目覚めとともに孤独からの解放感を覚え、生き方についても理解が深まるということが書かれていた。「まあ、そうだな。僕はもう孤独を感じないし」と思った。ハイヤーパワーが僕に求めることを実行する、つまり薬物を使わないでNAのミーティングに出席することで、うまく生きられるようになる。自分のやるべきことはこれなんだ、とわかった。

その翌年に列車で旅をしていたら、僕はものすごい幸福感で涙がこぼれそうになった。それでも、泣きはしなかった。これは、前に経験した感覚と同じだということがわかったからだ。ハイヤーパワーから3回も同じ兆しをもらったのだから、僕はまさにスピリチュアルな目覚めを経験したというわけだ。

それにしても、スポンサーも、僕も、なんで薬物を使ったんだらうか。スポンサーは自分のことが好きになれるようにするためさ、と言っていた。たしかに。僕もそうだな。でも、薬物を使ってみたところで、自分のことを本当に好きにな

れたわけじゃなかった。だから、12月20日にスピリチュアルな目覚めが訪れるまで、僕はしばしば薬物への渴望を覚えたけど、あれからはもう一度も薬物を欲することがなかった。

僕のスピリチュアルな目覚めは、深い安らぎと幸福感とともに訪れた。そういえば、幸福というのは赤信号でジリジリしているようなものだと、スポンサーが言っていた。なぜなら、おあずけを食わされるからだ。それでもスポンサーは、多少なりとも回復の道を歩むことでそんな状況でもちょっとリラックスすることを学んだから、今はもう、赤信号で待たされても緑に変わるのを辛抱強く待つことができるというわけだ。そこで、僕は今、待ってなんかいないかのように悠然と構えて、自分に言い聞かせる。ちゃんと信号が変わったら、通りを渡ろう。

ジアン・S (日本/東京)

MZSS: サービスにかぎらない収穫

私は、65歳で、クリーンになった日は1983年の11月だ。私が2016年のマルチ・ゾーナル・サービスシンポジウム(MZSS)に出席することにしたのには、それなりの理由があった。サービスについていろんなアイデアや実例を共有すること。全国のさまざまなサービス機関がどのようにメッセージを運んでいるかを学ぶこと。大きくみて、この2つだ。それに加えて、年に1度か2度しか会えないが、同じ奉仕を任されたしもべの仲間たちと時間を共有するという楽しみもあった。だが、こうして参加することが、遅ればせながらも自分自身の治療になるとは思ってもいなかった。

シンポジウムが開催された週末は、ホールにいても、エレベータに乗っても、私にはきまりの悪い状況が続いていた。しばらく前に無礼なあつかいをされた仲間と、いく先々で鉢合わせすることになったのだ。私は気づかないふりをして、目を合わせようとしなかった。しかし、そこかしこに、必ずそいつがいるもんだから、私はそのたびに無視することになった。

シンポジウムの閉会が迫った日曜の朝には、私は早起きをして、午前7時のリカバリーミーティングのためにロビーの隅に椅子を並べた。ミーティングのテーマは、『今日だけ』という黙想の本のなかでその日について書かれていること、すなわちステップ4に取り組むということだった。そして、私はわかちあいのなかで自ら口にした言葉によって、不意を突かれた。「ステップ4では、私たちは自分の抱く恨みについてよく考えてみるようにうながされる」。そうか、私はもう10年以上もあんな奴のことを恨んでいたってわけだ。

なんだかなあ。私はこんなに老いぼれて、物忘れしない日など一日たりと

してないっていうのに。あれ？携帯がないぞ。ウソだろ、電子ブックをバスの座席に忘れてきちゃったのか？(その通り。でも、こころやさしい市民がいて、忘れ物として届けてくれたので見つかった) 資源回収は、今週だけ？それとも先週だったか？おわかりいただけるだろう。この物忘れの「激しさ」が。それでいて、10年以上も大昔のことであろうと、人からぞんざいにあつかわれたことはありありと覚えていられるのだ。

つぎに私の口から出てきたのは、自分自身への誓いの言葉だった。私は、ミーティングの出席者たちを前にして、もし帰る前にもう一度この相手と出くわしたら、恨みを抱いていたことに対する埋め合わせをするつもりだと言った。許しとはまた、妙なことになったもんじゃないか。だが、恨むのをやめるための正しい作法がどういったものか、私にはよくわからなかった。ひとつきあいのルールを変更しようとする場合には、相手がこちらの心を読んで新しいルールに気づいてくれるのをあてにせず、こちらから何か言うのが礼儀だろうな。私は、ミーティングの席でなおもペラペラ喋りながら、ホテルを出て飛行機で帰路に着くまでのあいだに相手と出会うことがないように願っていることも、白状した。

話の先はおわかりだろうな。私たちは、会場の外でバッタリ出くわした。私は、相手呼び止めた。二人で話をしながら、相手の車のところまで歩いていった。二人で握手をした。そうなれば、ハグだってするんじゃないかな。

私はみんなから、なぜ今でも回復をわかちあうミーティングに通っているのかと聞かれることがあるが、その理由は、ここに書いた通りだ。どこにいようと、いくつになろうと、どれだけクリーンタイムを重ねようと、回復の旅に楽しみはつきない。たとえば、ほかの人たちに回復のメッセージを届けることに焦点を当てたシンポジウムのように、思いもよらない場所で学ぶことも多い。そこでメッセージを受け取る「人」が、自分であったりもするからだ。

キット・E

(アメリカ合衆国/ミネソタ)

ままならない

人生の旅

火曜のことだ。おれは、かかりつけの診療所(5マイル離れたところにある)が閉まる5時までにとどろき着けるようにと、午後3時半ごろに職場を出た。おれはここ5日ほど、糖尿病の治療薬を切らしていた。保険では、担当医による事前認可の要請がないと再処方費用をまかなってもらえないし、おれには処方代の800ドルを自腹で払うだけの金がなかったからだ。先週の金曜も、月曜も、診療所が閉まる前にたどり着くことができなかったため、5日におよぶ高血糖で集中力が著しく低下してしまった。保険の問題が解決するまでは、せめて無料サンプルの治療薬をもらうしかない。そのために、5時前には診療所に行くつもりだった。そもそも、こんなはずじゃなかった。自分を大切にしなきゃならないのはわかっているのに。そのために最善をつくすべきなのに。それこそが回復の道を歩むなかでおれがずっと取り組んでいることなのに。現実はそのようになっていない。

おれは職場をでたはいいが、ほとんど意識がもうろうとした状態で、ふと気づくと財布がない……!

マット・S

(アメリカ合衆国/カリフォルニア)

マットの人生の続きは
ここをクリック

みなさんが作る NA Wayマガジン

NAで回復の道を歩むなかでみなさんが経験したことを、NA Wayマガジンでわかちあいましょう。体験談、NAでみられる事柄に関する意見、写真、回復に関する自作のアート作品など、手段はいくらでもあります。このほか、みなさんのNAで発行しているニュースレターも歓迎しています。いずれも電子文書(テキスト文書をはじめ、jpg, gif, pdf, など)にして、naway@na.orgへ送信されるようお願いいたします。投稿や著作権譲渡に関して詳しいことを知るには、www.naway.orgをご覧ください。

ガイディング・プリンシプルス:

ザ・スピリット・オブ・アウア・トラディションズ

『ガイディング・プリンシプルス』は「ユニット方式」のワークブックとしてつくられたため、各章にはさまざまな方法で利用できる項目が設けられています。各章の始まりと終わりにある文章は、個人の黙想に、回復に関するミーティングのテーマに、あるいはサービスの中で話し合う議題にと、いろんな場面で役立つでしょう。また、メンバー、グループ、サービス委員会とそれぞれを対象にして、書くことや、話し合い、ワークショップなどに関する質問も設けられています。

「ワード・バイ・ワード」と「スピリチュアルな原理」という課題では、伝統全体をよく理解して実践する方法として、各伝統にある言葉や、言い回しや、スピリチュアルな原理に目を向けることが求められます。自分の書く練習のために特定の言葉や言い回しを辞書で調べてもよいし、あるいはまた、伝統に関係するいくつかのスピリチュアルな原理について、グループのビジネスミーティングやサービス委員会の会議で議論するのもよいでしょう。

2016年10月号のNAWayマガジンでは、『ガイディング・プリンシプルス』の「伝統1」の章にある質問例から一部をご紹介します。今月号では、「伝統2」の章にある「ワード・バイ・ワード」と「スピリチュアルな原理」から抜粋してご紹介します。

ワード・バイ・ワード

書くことや、スポンサーや仲間たちと話し合うにあたり、この伝統にある言葉や言い回しをひとつひとつ、または互いに関連させながら、定義したり、詳しく説明したり、意味を明確にしておこう。

(例) しもべ

しもべになるのは、不平等な関係でほかの人たちに仕えることを意味するかもしれないが、これだけではこの用語は理解できないし、NAではそういう意味で用いられることもない。「しもべ」にはほかにも、献身的な人、役立つまたは有用な人、他人を気遣う人、目的に向かって取り組む人という意味がある。しもべは、慎重で献身的な動きをする。権威ではなく、信頼を担う役目である。NAでしもべという言葉を使うのは、NAのどの部分に対しても、個人が単独の所有権を持つことは絶対にはないからだ。私たちは、ひとりひとりの貢献が重要であることを認識して、謙虚さと感謝の気持ちでNAのためになることをする。私たちが無私無欲で役立つ努力をすれば、個人的なことよりも、私たちの目的が第一のものとなる。しもべの任務、目的、遂行の過程は、どれもみなスピリチュアルなものである。

役に立とうとしていると、私たちは変わる。埋め合わせをすることでもっと寛容になることを教わるように、無私無欲で役に立とうとすることは、寛大さ、思いやり、目的意識をもたらす。サービスは、私たちがこの世界で生きるすべを身につける場である。そして、私たちは自分に惜しみなく与えられたものを与えることによって、ナルコティクス アノニマスでも外の世界でも、与えられて当然と思う恵みにどれほどの努力が注ぎ込まれているのかということを認識することができるのだ。

スピリチュアルな原理

どの伝統にも、さまざまなスピリチュアルな原理が盛り込まれている。以下に挙げた原理と価値を認めるものは、私たちがこの伝統を活かす際に役立つかもしれない。書くことや、スポンサーや仲間たちと話し合うことで掘り下げてみよう。また、これ以外にも自分にとって重要になると思えるものがあれば、つけ加えておくとよいだろう。

- ・一体性 ・降伏 ・受容
- ・献身 ・無私無欲 ・愛
- ・アノニミティ ・安全 ・もてなし
- ・共感 ・善意 ・謙虚さ

(例) 愛

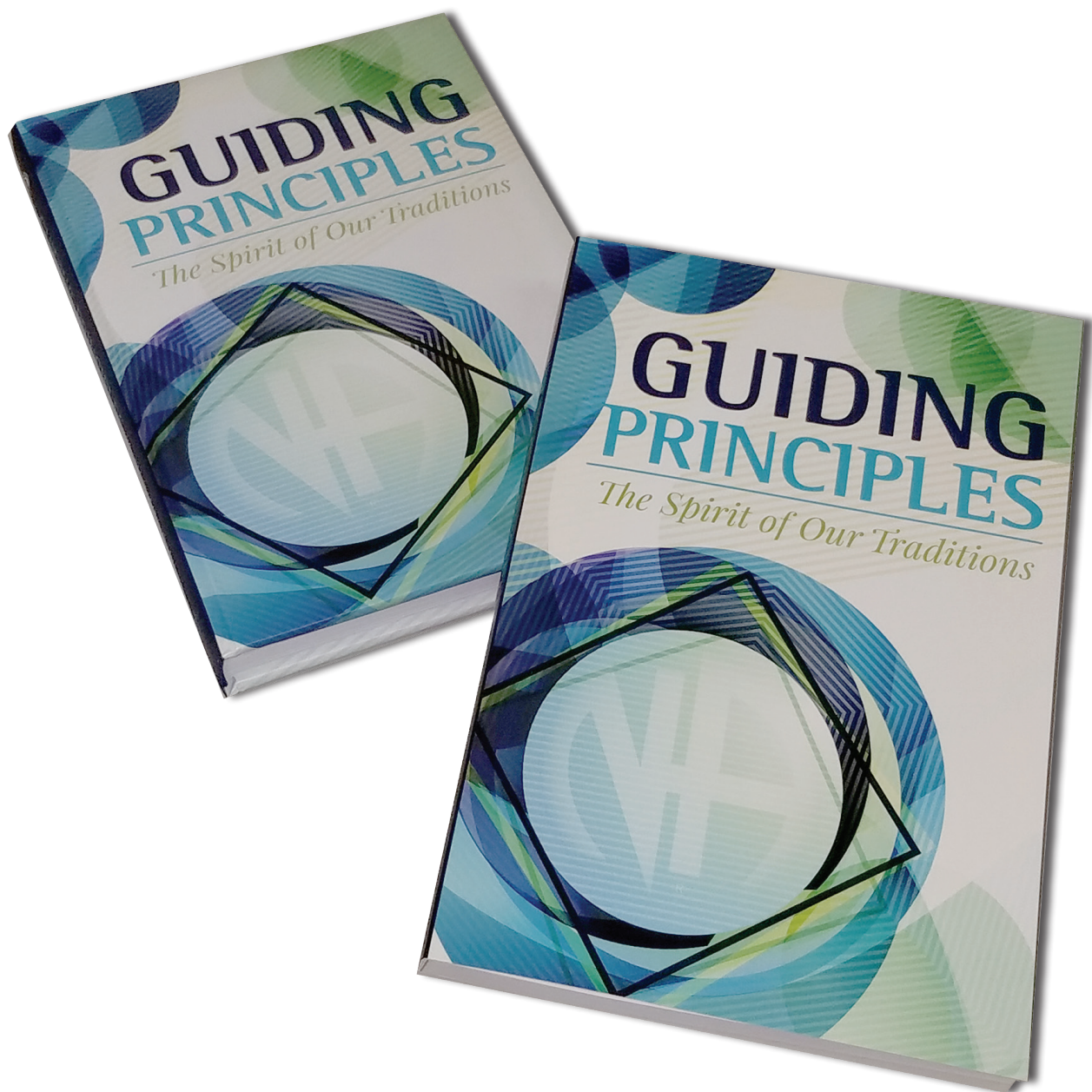
愛は、ナルコティクスアノニマスの原動力のひとつでありながらも、愛という言葉は伝統2のなかにしかみられない。私たちが結びつける愛の精神は、私たちひとりひとりの個性よりも偉大なものだ。愛の精神によってアノニミティに命が吹き込まれれば、私たちは一体性のなかでひとつになることができる。奉仕を任せられたしもべであること、愛の精神によって行動すること、自分より偉大な力を信頼することは、どれもが伝統2を実践することになる。私たちがNAで共有する愛は、互いの命を救うために十分に気を配っていることを意味する。私たちが互いのためにする最も愛情のこもったことは、つねにわかりやすいことであったり、寛大なことであったりするとはかぎらない。私たちは、互いに声をかけあって思いやりと配慮と気遣いによってサービスに取り組み、正直さと共感によって互いに手を差し伸べる勇気を持つとうとするのだ。

自分がどういう人間であるとか、どんな生き方をしてきたとか、どんなことをしたかなどにかかわらず、

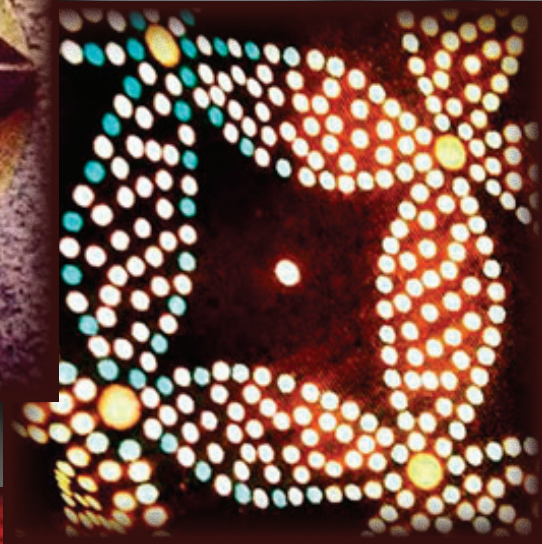
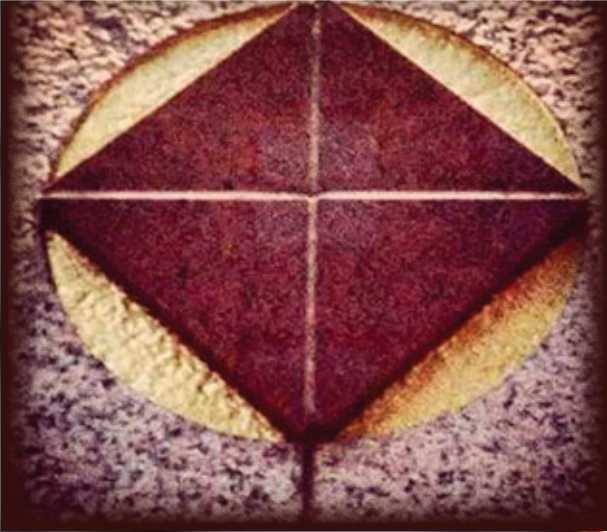
私たちはナルコティクス アノニマスにつながって共感と受容で迎えられ、自分の居場所があるとわかる。私たちは、全員に仲間意識をもつわけではないとしても、アノニシティによって愛を知ることができるし、そうやって次々と愛を知っていくから、無条件で互いを受け入れあうことができるようになるのだ。伝統2は、愛なる神がグループの良心のなかに姿を現わすかもしれないことを教えてくれるが、私たちが愛を欠いた状態だったら、愛なる神の声は聞きとれるものじゃない。一体性は、最も困難な行為に思えるときでさえ、愛によって行動しつづけようとする意欲にかかっている。それが私たちを変えるスピリチュアルな鍛錬になり、NAの存続を確かなものにするスピリチュアルな献身にもなるのだ。

『ガイディング・プリンシプルズ』の制作段階では、この本のあらゆる側面に関する見直しと意見提供を通じて役立つフィードバックが大量に寄せられたので、今度は『ガイディング・プリンシプルズ』を活用した経験談を聞かせてもらえることを楽しみにしています。また、次回カンファレンスまでの2年間にあわせたNA全体による「インシュー・ディスカッション・トピック (IDTs)」のひとつに『ガイディング・プリンシプルズ』の活用法があります。この本のことをもっと知りたいと思うメンバーたちは、このIDTsに関するワークショップに出席したり進行役を務めたりするといでしょう。そして、この本を利用するメンバーは必ず、自分なりに最大限に活用した方法について、ほかの人に経験や提案を伝えるようにしていただくようお願いいたします。みなさんのフィードバックを共有するために、worldboard@na.org までEメールをお寄せください。

『ガイディング・プリンシプルズ』に関するIDT(や、ほかのIDTs)について、さらに詳しいことを知るには、www.na.org/IDT をご覧ください。このサイトには、ワークショップやディスカッションに関する概要をはじめ、さまざまな資料が掲載されることになっています。



#weareev



NA Way マガジン、2017年1月号

Everywhere



撮影者：ティミー・L、アンディ・M、ハイメ・V；（アメリカ合衆国／マサチューセッツ）

フェローシップ ディベロップメント

NAワールドサービス (NAWS) が行っていることはどれもみな、フェローシップディベロップメント(FD)の一部であり、その取り組みはすべて「NAのサービスにたくす未来」によって推進される。そして、効果的なFDには、コミュニケーション、つながり、共同作業の3つが欠かせない。そこで、ワールドサービスができることやすべきことと、近隣のNAやそのサービス機関に任せた方がよさそうなことをはっきりさせておくために、日頃から、たえず成長しつつある世界各地のNAの状況を把握しておくことが大事になる。また、FDの取り組みでは、継続的な共同作業とコミュニケーションが必要になる。NAワールドサービスが最初にわたりをつけてさまざまなNAやメンバーの間をとりもてば、つながりのできたNA同士がそれぞれのメンバーたちに支えられて飛躍的に成長するということが少なくないからだ。

CANA/ACNA

カナダ、ミシソーガ

2016年9月23日~25日

カナディアン・アッセンブリー・オブ・NA / ルサンブレ・カナディアン・デ・ナルコティクス・アノミス (CANA/ACNA) は、カナダ全域のNAに役立つゾーナルフォーラムになっている。年に一回、カナディアン・コンベンション・オブ・NA / コンベンション・カナディアン・デ・ナルコティクス・アノニマス (CCNA) と合同で開催され、全国各地で取り組んでいるフェローシップディベロップメントやアウトリーチ活動をはじめとして、カナダのNA全体に影響を及ぼす問題を討議している。この集会は現在、ブリティッシュコロンビア、アルサスク、オンタリオ、ケベック、カナダ・アトランティックの5つのリージョンによって構成され、そのほかにもウィニペグエリアのメンバーたちが参加している。

NAWS(NAワールドサービス)はここ10年以上にわたって毎年、CANA/ACNAに招かれてきた。これはNAWSにとって願ってもない機会となっている。ゾーンのリージョナルデリゲートやオルタナイトと一堂に会することができるし、それ以外のカナダの奉仕を任せられたしもべたちやサービスに関心を持って参加するメンバーたちにも情報と支援を提供できるからだ。また、CANAの議事日程では、NAWSのセッションのためにかなりの時間を割り当てられるのがあたりまえのようになっている。2016年のCANA/ACNAでは、私たちはNAWSの最新情報を提供するとともに、「パブリックリレーションズ/ フェローシップディベロップメント」と「ソーシャルメディアとテクノロジーにNAの原理を生かすこと」をテーマとするセッションの進行役を務めた。そして、長期的なプランや、パブリックリレーションズをはじめ、会期中に開かれたさまざまなテーマの話し合いにも参加した。また、夜には「歓迎会」も主催し、CANA/ACNAの出席者だけでなく希望者はだれでも参加自由とした。

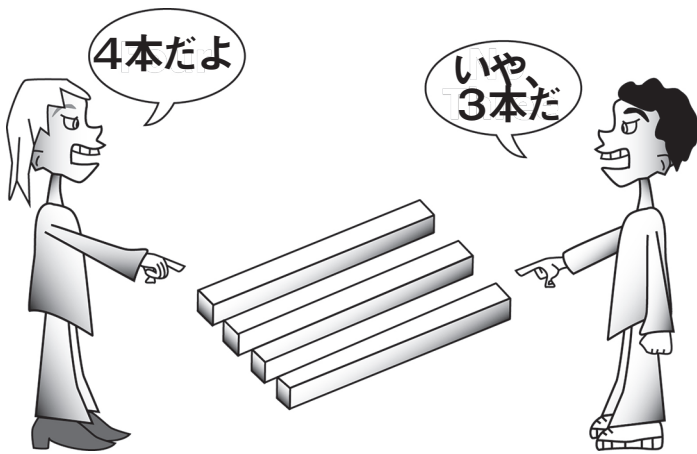
私たちがこれまでCANA/ACNAに出席している間に、カナダ全域のNAではしっかりした成長と発展の歩みを進めてきた。そうやってカナダのNAが発展を続けていけば、北米の辺境にあって手を差し伸べるのが最も困難な地域にいるアディクトたちにも、NAのメッセージを届けられるようになるだろう。このゾーナルフォーラムは、それを実現させようという決意でいる勤勉なチームであり、期的なプランを立てて、計画的なサービスの提供をしやすくする方法をとっている。NAワールドサービスでは、引き続きこのような取り組みを支援していくつもりだ。ここで、CANA/ACNAによる現在のプロジェクトプランを紹介しよう。

- イヌクティウト語とクリー語によるIP # 1の翻訳
- 英語とフランス語 (カナダの2つの公用語) の両言語によって、新たな公共広告 (PSA) を利用できるようにする

- canaacna.org をバイリンガルのウェブサイトに変えさせる
- さまざまな継続教育ユニット (CEU) を提供している専門家によるイベントを主催する
- CANA/ACNAとカナダ矯正局との関係を改善して、連邦クリアランス・フォーム(管理者からの正式な許可証)の一本化を要請する。
- 連邦の法執行機関に接触して、カナダ騎馬警衛隊 (RCMP) との関係を築く。

CANA/ACNAの会議が閉会すると、NAWSはCCNAにも出席した。こちらは、推定で600名のメンバーが参加していた。CCNAでは、私たちは今回のイシュー・ディスカッション・トピックのうち「サービスにおける回復の雰囲気」と「『ガイディング・プリンシプルス』:新しい伝統のワークブックを活用する」の2つについて、それぞれのセッションで進行役を務めた。NAワールドサービスは、自分たちの未来像の実現を目指して努力しているCANA/ACNA と協力できることを誇らしく思っている。





ハワイ リージョン サービス ラーニングデイ ハワイ州 ホノルル

2016年7月8日~10日

ハワイリージョンは5つの島にまたがっている。オアフ、マウイ、ビッグアイランド（コナとヒロという2つのエリアがある）、カウアイ、モロカイという名の島々だ。ハワイリージョンのラーニングデイは毎年一回、島から島へと持ち回りになり、2016年はオアフ島で開催された。いずれの島でも、参加者のほとんどは空路で行くことになる。そして、新しい仲間はひとつの島につき2名ないし3名まで、リージョンの資金で参加することができる。こうしてNAのサービスについて学ぶ機会を提供することで、新しい仲間がNAのメッセージをうまく伝えられるようになることやリーダーシップを養うことに力を注いでいるのだ。

ハワイのNAは、アジア太平洋地域に住む多種多様なメンバーによって構成されている。2016年のラーニングデイには、ハワイのリージョナルデリゲートとオルタネイトをはじめとして、地元に住むワールドボードのメンバー1名と、歴代の委員長を務めたメンバーたちのほか、30名のメンバーが出席した。出席者たちの話を一部ここに紹介しよう。

- ◆ わたしは、いろんな会議に出席して役割を引き受けることにします。
- ◆ 僕は、リージョナルコミティの補欠委員に名乗りをあげるつもりだ。
- ◆ 私は、H&Iが刑務所にミーティングを運ぶのを応援しよう。
- ◆ あたしは、「伝統7」による献金箱に（1ドルではなく）2ドル入れるわ。
- ◆ 俺は、（最近ハワイに移住してきたメンバーの話を聞いて）どうすればもっとハワイの島々の役に立てるのかわかったよ。

当日は、積極的な意見交換が行われた。まず持ち寄りの夕食会を開き、それからスピーカーミーティングという順に進めていくと、会議が始まるころには、この週末の間に予想されることや参加者たちの期待することが大筋でみえてきた。また、開催期間中には「投書箱」を設けて質問を受け付けた。今回のラーニングデイの議題には、何人かの古いメンバーによって提示された「H&I」と「PR」をはじめとして、「NAの歴史」「だれがNAのミーティングからいなくなってしまうのか」、「NAの知的財産所有権（FIPT）」、「資金の流れ/献金の使い道」なども取り上げられた。そしてこのような議題とは別に「イシュー・ディスカッション・トピック(IDT)」のなかから「サ

ービスの場に回復の雰囲気を作り出す」をテーマにしてワークショップも開かれた。これは、「NAのサービスにたくす未来」で重点が置かれることのひとつを指針としている。それはすなわち、「ひとりひとりのメンバーが、回復という神の恵みを与えられることによって、スピリチュアルな成長を遂げながらサービスによる充実感を味わうこと」である。NAという大きな集まりの一部になることができ、私たちは幸運だ。あるメンバーはこんなことを言っていた。「愛情豊かで思いやりのある環境を作り出すことは、すでにNAにいるメンバーやまだNAにつながれていないメンバーたちのために、みんなでできることをするチャンスであり責任でもあるんだ。自分には、そういう自覚がなかった」

サービスは、ナルコティクス アノニマスで回復の道を歩むうえで不可欠なものになると私たちは思っている。私たちの前につながったメンバーたちの活動がなかったら、私たちのほとんどが回復をみいだすことができなかつただろう。今回のラーニングデイでは、効果的なリーダーシップについて対話を始めるにあたり、緊張をほぐすものとしてここに載せたようなイラストを利用した。効果的なリーダーシップには、問題をあらゆる側面から眺めることが必要とされるので、メンバーの声はどれも重要であり、ひとりひとりに発言の機会が与えられるべきであることを再確認させてもらった。

今回のハワイリージョンのラーニングデイでは、みんなで一緒に過ごした時間が功を奏して、ハワイ全島のNAのためになる共同作業がいくつも誕生した。新しいメンバーがリーダーになる手立てもできた。刺激的で熱のこもった週末になった。ハワイでNAが成長を続けていく土台を築くことによって、私たちの未来像が浮き彫りになったのだ。

マルチ・ゾーナル サービス シンポジウム ウィスコンシン州 ミルウォーキー

2016年7月8日~10日

第2回MZSS(マルチ・ゾーナル・サービス・シンポジウム)は「シェアリング・ザ・ミラクル」というテーマで開催され、今回もまた素晴らしいサービス研修会の週末になった。約200名の出席者のうち、合衆国からは少なくとも30のリージョンのメンバーが集まり、カナダからもメンバーが1名参加した。また、シンポジウムで開かれた2つのワークショップには、ブラジル、カナダ、合衆国のメンバーたちがインターネットによって参加した。そして今回参加できなかったメンバーは、mzssna.org にワークショップの音声ファイルや文書が保存されているので、ぜひご覧ください。

今回は、3つのゾーナルフォーラム（ミッドウェスト、プ



レインステイツ、サザン)によるインターネット上のワークグループが企画を担当したため、ワークグループのメンバーたちはシンポジウムが開催される週末まで直接会うことはなかった。つまり今回は、開催前や開催期間中になんらかの形で手伝ってくれたメンバーたちの信じる心や信頼、忍耐、何時間にも及ぶ作業とともに、テクノロジーを利用することによって開催されたのだ。そして当日は、数多くの素晴らしい司会者によって、フェロシップディベロップメントや広報活動やテクノロジーによるサービス提供など幅広いテーマでいくつもワークショップが開かれ、メンバーたちが2014年のMZSSによる刺激的な波及効果のいくつかをわかちあうのを耳にした。こうして新たな手法やアイデアに触れ、NAのメッセージを運ぶことに熱心な仲間たちとともに過ごしながら学ぶだけで、参加者たちは一新されて活気を取り戻した。

次回のMZSSは、2018年の秋にプレインステーツ・ゾーンのどこかで開催されることになっている。参加方法や、最新情報を入手する方法については、mzssna.org をご覧ください。

ウェスタン サービス ラーニングデイズ カリフォルニア州 サンディエゴ 2016年10月21日~23日



この「ウェスタン サービスラーニングデイズ」として知られる巡回のイベントは、北米の西部地域(とそれを越えた地域)にあるNAのメンバーたちがサービスの経験と成功例を共有する場となっている。もともとは一般社会に向けて情報を伝えるイベントであったのが、サービス全般に関するワークショップも提供するイベントへと発展したものだ。

WSLD (ウェスタン サービスラーニングデイズ) のガイドラインには、毎年、NAWSの参加を要請して最低2回のワークショップを開くことが盛り込まれている。NAWSでは、このイベントに参加して求められる数のセッションの進行役を務めることを、いつも喜びとしている。複数のリージョンによるサービス志向のイベントにNAWSが存在するようにすれば、数多くのNAから参加するメンバーの層も厚くなり、さまざまなメンバーと直接交流することができるだろう。

第30回WSLDはサンディエゴ インペリアルカウンティーズ リージョンの主催で開催され、NAWSはさまざまなワークショップを開いた。テーマは「NAWSの最新情報」をはじめとして、「コンベンションなどさまざまなイベントに関する成

功例」、「広報活動とフェロシップディベロップメント」、「リージョンのサービスオフィス/コンベンション・ボード・オブ・ディレクターに対して、法的な責任と霊的な責任のバランスをはかる」、「サービスにおける回復の雰囲気」と多岐にわたるものだった。そのほかにも私たちは、最終日の朝に「WSLDで何を学んだのか」という最終確認のセッションも行い、期間中に聞いたり学んだりしたことや、ホームグループやエリアやリージョンでどんな行動を実行に移すために力を注ぐことにしたのかということ、参加者が確認できるようにした。

WSLDでは毎年、NAと専門家による集いを開催し、回復を求めるアディクトのために協力する方法について専門家とNAの奉仕を任されたしもべが情報交換をしている。第30回WSLDでは、回復の過程で精神病の薬物治療を用いることと、現役軍人および退役軍人の治療センターやアラノン・ファミリーグループの代表者との協力関係について、医療や治療の専門家たちによる発表が行われた。

以上のほかにも、今回のWSLDのセッションで取り上げられたテーマを挙げてみよう。「NAのサービス委員会の委員長になる」、「テクノロジーによって新しいメンバーを引きつける」、「アウトリーチ」、「ウェブサイト」、「12の概念」、「電話サービス」、「テクノロジー」、「GSR」、「塀の中でのスポンサーシップ」、「しっかりしたホームグループをつくる」、「スクール・プロジェクト」、「さまざまな活動のなかで、一体性と共同作業のためにテクノロジーを利用する」、「概念11」、「広報活動の包括的な構造」など実にさまざま。また、セッション以外では「NAの歴史」と「H&I」と「メインスピーカー」をテーマとして、スペイン語による3つのワークショップも開かれた。

第31回WSLDは、カリフォルニア州中部のサンタクルーズ・アンド・モンテレー・カウンティエーズ・エリアの主催により、サンタクルーズで開催されることになっている。第30回WSLDについては、www.sandiegona.org/events/wslid-xxx/ にさまざまなセッションの記録が掲載されている。また、WSLDについてさらに詳しく知るには、ホームページwww.wslid.org をご覧ください。

検討すべき課題

検討すべき課題は、世界中のNAで回復の道を歩むアディクトたちが2年ごとのカンファレンスの間に議論の場やワークショップで焦点を当てるテーマとなるものです。このような話し合いによって、私たちは関連した話題についてさらに深く考えようとするので、グループやサービス機関のなかに一体性が生まれます。しかも、みなさんの話し合いの結果がワールドボードに送られることによって、NA全体の方策とサービスを方向づけることにもなるのです。

2016年~2018年までの2年間で検討すべき課題

- ・ サービスにおける回復の雰囲気
- ・ テクノロジーとソーシャルメディアにNAの原理を活かす
- ・ 『ガイディング・プリンシプルズ：ザ・スピリット・オブ・アウア・トラディションズ』の活用法

詳しくは www.na.org/IDT をご覧ください。このページには、みなさんの議論に役立てていただくために、ワークショップに関する資料も掲載されることになっています。

NA フィリピン

NAワールドサービスは、継続的なフェローシップディベロップメントと支援を通じて世界中のNAと協力している。そして、メンバーや奉仕を任されたしもべや一般の人たちと集まって、サービス委員会の課題や、新しいプロジェクトのための考え、新しいミーティングの開き方など、当座の関心事について情報交換も行なっている。また、予期せぬことが生じて自分たちの暮らす地域のNAに影響が及ぶ場合にも、メンバーたちはNAWSに援助を求めることができるし、実際しばしばそうしている。ハリケーンや洪水や地震などさまざまな困難に見舞われれば、NA文献が傷んで使い物にならなくなったり、ミーティング会場がなくなってしまったり、仲間と連絡が取れなくなってしまうことなどによってNAがめっちゃくちゃにされてしまうことがある。このような状況になったら、現地のNAが立ち直ってNAのメッセージを運び続けることができるようにワールドサービスが支援物資を提供することもある。

つい最近では、NAフィリピン（ナルコティコ アノニモ ピリピナス）のリージョナルデリゲートから連絡があった。フィリピン政府の政策によるものと思われるが、新しいメンバーが大量に流入してきたことでNAWSに支援を求めてきたのだ。これにより、フィリピンのミーティングがしっかりして安全であることや、フィリピンのメンバーたちが回復を求める人たちにNAの存在を知らしめようと広報活動に相当力を入れていることがわかって、私たちはうれしかった。フィリピンではこのようなメンバーの急増に直面して、NAの文献を真っ先に求めてきた。そこで、ワールドサービスはまず、差し迫った必要を満たすために回復に関する文献と広報活動の資料を航空便で送り、その後リージョン全体に配布できるように追加の便で35箱以上の物資を送った。そして、さらに必要なものがある場合には、いつでもワールドサービスに声をかけるようにとNAフィリピンを励ましてきた。

ひとりひとりのメンバーも、グループも、サービス委員会も、それぞれによそのNAが困っているのを耳にすればなんとしても手を差し伸べたいと思うものだが、よそのエリアやリージョン全体でどのような援助が必要なのか、どうすればちゃんとした人の手に届くのかということ、見極めるのは難しいことになる。よその国にNAの物資を送り込むという善意の試みは、紛失したり、押収されたり、またそれ以外にもいろんなことで正常な配達物が妨げられたりするため、失敗に終わることが多いのだ。

NAワールドサービスは世界中のNAと継続的に連絡を取ることで、コミュニケーションや、送料と関税、そして文化的な問題をもたちどころに調整する知識と能力に恵まれている。このため、現地のNAメンバーたちと直接協力してどんな援助を必要とするかを見極めたうえで、実際に送られる物資がアディクトの手でNAグループにちゃんとたどり着くようにするために最良の方法を決めることができる。だから、メンバーやグループが危機に瀕したNAを直接支援してもうまくはいかないが、NAワールドサービスに献金することは直接の効果をもたらす方法になる。それは必ずや、回復を求めているアディクトたちがナルコティクス アノニマスにつながる助けになるからだ。

世界的なサービスは、NA全体の問題や要望に対処するものであり、NAメンバーやグループのためになると同時に社会にも役立つものである。NAが世界的なサービスによって基本的に目指すことは、コミュニケーション、調整、情報提供、ガイダンスである。私たちは、NAのグループやメンバーが回復のメッセージを順調に運ぶことができるように、そして世界中のアディクトがNAの回復のプログラムを利用できるようにと、このようなサービスを提供するのだ。

A Guide to World Services in NA

NAワールドサービスへの献金は、www.na.org/contribute で手続きができるほか、NA World Service; PO Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USAへの郵送も受け付けています。



グループ紹介

NA Wayでは、世界中のNAからミーティング会場やイベントの写真が送られてくるのをお待ちしています。ただし、集まっているメンバーがどこのだれとわかる写真はご遠慮ください。なお、写真には、グループやイベントの名称、所在地および国名はもちろん、グループやイベントが誕生してどのくらい経つのか、ミーティングの形式やイベントで大事にしている習慣、ユニークな点など、グループやイベントの紹介文を添えていただくようお願いします。宛先は、naway@na.org となっています。

野外ミーティングで しっかりグループの土台を築く

世界各地のNAグループと同じく、僕らのグループもこれまでいろいろと苦労してきた。一箇所ですべてのミーティングを開きすぎたことで、地域社会の支持を得られなくなってしまったんだ。僕らのグループは、スピーカーや議長のなり手には事欠かなかったけど、クリーンタイムもサービスの経験も限られたメンバーばかりだった（クリーンタイムが6ヶ月～9ヶ月で、NAのメッセージを広めることがどれほど重要なことであるかを理解していないというありさまだ）。そして、グループがひとつの会場で開くミーティングの数が多すぎることが必ず問題になるのだった。会場となる施設はそのことに辟易し、ときにはメンバーたちの嘆かわしい振る舞いによっても困惑させられることになった。

そこで、6年前、僕らはコリント（首都アテネに近い町）で野外ミーティングを開くようになった。メンバーたちはしぶしぶ参加したものの、だれも本気で関わろうとはしなかった。野外でミーティングをするという考えを笑う者もいたし、不安がる者もいた。そういうなかで、アテネから応援に駆けつけてくれる仲間もいた。こうして野外で集まるようになり、3ヶ月ぐらいするうちには出席者の数も少しずつ増えていき、きちんとグループに関わろうとするメンバーたちが現れた。そして冬になり、グループはビジネスミーティングを開いて、屋内の会場を探そうということで意見が一致した。

だが、屋内に移ってまもなくすると、コーヒー係がリラプスして刑務所に入り、文献係もリラプスしてグループを放棄し、GSRは800キロも離れたところへ引っ越してしまった。しかも教会の神父が交代し、新しい神父からNAのミーティングは教会の信条と相入れないと感じるので、出て行ってほしいと言われてしまった。そんなこんなで、またもや野外でのミーティングとあいなった。

僕らのグループは、1959年のNAのようだった。消滅しかけていた。それでも、僕らは野外でミーティングを開きながら新しい会場を探した。「神は、グループがなくなってもいいと思ってるんじゃないのかな」。一部のメンバーたちからはそんな発言もあったけど、僕らは信じていた。そして市役所でミーティングを開けることになったのだ。グループは、かつて



の苦労を思い出し、ひとつの会場で開くミーティングは1回としてとにかく物事を複雑にしないように心がけた。奉仕を任されたしもべも、よく考えて選んだ。

ほどなくして、隣の町でもクリーンにとどまって真剣に取り組もうという奉仕を任されたしもべが次々と誕生し、野外ミーティングを始めるといふので、僕らはその手伝いをした。それが、うまくいった。つまり、グループが屋内の会場に移ってから、NAの原理を守りながらNAの責任を果たすことによってきちんとミーティングを開いていけるように、野外ミーティングでしっかりグループの土台を築くというパターンが出来上がったのだ。

こうしてNAの原理を実践した結果、新たな奇跡が起こった。さらに多くのミーティングを定着させるべく、僕らはルートラキ市の市長にNAに関する情報を提供したかったのだが、市長は忙しすぎて面会することができなかった。そんなある日、僕らがダメ元で庁舎に行ってみると、幸いコリント市長も用事があって庁舎に来ていたのだ。僕らが助けを求めると、コリント市長は会談を終えてからルートラキ市長と連れだって出て来た。

そしてコリント市長の口添えにより、僕らは約1年におよぶ野外ミーティングの後に、ルートラキ市にミーティング会場ができたのだ。また、僕らがコリント市長との約束をしっかり守ったことによって、僕らのグループが行儀よく信頼できるとわかってもらったので、コリント市長は自ら進んでNAの代弁者となってくれた。僕らが最初のミーティングをNAのガイドラインに基づいてしっかり続けていたら、人々はNAのことがわかるようになり、NAを信頼して進んで力になるようになってくれたんだ。

グループではこれまでも今も、メンバー全員がサービスに関わり、それによってコリント市を中心にさまざまな関係を築いてつながりを深めていこうとしている。つい2、3日前には、7ヶ月の野外ミーティングを経て、コリント市近郊で3つ目となる屋内会場でミーティングが開かれるようになった。みんなでチラシを置いたり、NAに関する情報を伝えるためにラジオのインタビュー番組に出席したり、ラジオの公共広告を利用したりと、これまで取り組んで来たことがうまくいった。その結果、NAの友人が増えたことでNAのメッセージが広まっている。薬物のことでお困りなら、NAが役に立つでしょうってね。このノーザン・グreek・エリアでは、この4年間に10の野外ミーティングが開かれ、そのうち5つはこの4年間に屋内の会場を見つけ、残りの5つは今もなお野外で運営されている。来年は、コリントで第13回リージョナルコンベンションが開催されることになっている。これもまた、僕らの苦労から生まれたNAの奇跡にほかならない。

スタブロス・P（ギリシャ/コリント）



CALENDAR

Multiday events and those occurring between publication dates are printed according to the schedule posted online. To enter events or to access event details, visit the online calendar at www.na.org/events. (If you don't have Internet access, fax or mail your event info to 818.700.0700, attn: NA Way; or *The NA Way*; Box 9999; Van Nuys, CA 91409 USA.)

Australia

New South Wales 3-5 Mar; Far North Coast Area Convention; A & I Hall, Bangalow; na.org.au

South Australia 17-19 Mar; South Australian Area Convention; Barcoo Function Centre, Adelaide; <http://na.org.au/>

Canada

Quebec 3-5 Mar; Youth Convention 21; Hôtel des Gouverneurs Place Dupuis, Montreal; event info: 514.605.6969

Egypt

Cairo 24-24 Feb; Unity Convention-الوحدة; Cairo International Stadium-Covered Halls-Lounge 2, Cairo; naegypt.org/en

Nepal

Kathmandu 10-12 Mar; First Asia Pacific Forum Convention; Nepal Academic Hall, Kathmandu; www.apfcna.org

Netherlands

Breda 1-2 Apr; South Netherlands Area Convention; Amrath Hotel Breda, Breda; <http://naco.nl>

New Zealand

Rotorua 10-12 Mar; In All Our Affairs; Waiotapu Forest Camp, Rotorua; www.rotovegas.com/events

Norway

Trysil 12-19 Mar; Ski & Recovery 11; Trysil; nanorge.org/events

Thailand

Chiang Mai 24-27 Feb; Thailand Regional Convention 10; Centara Duangtawan Hotel, Chiang Mai; www.na-thailand.org

United Kingdom

London 7-9 Apr; London Convention 25; Quaker, Friends Meeting House, London; www.londonna.org;

United States

Alabama 17-19 Feb; Out of the Darkness, Into the Light 20; DoubleTree, Decatur; www.naana.org/ootd

2) 24-26 Mar; Freedom on the Coast; Marriott, Mobile; www.alnwfl.org

Arizona 2-5 Feb; Arizona Men's Spiritual Retreat 5; Franciscan Renewal Center, Scottsdale; www.themensretreat.org

2) 10-12 Mar; Mexico Arizona California Convention 8; Shilo Inn, Yuma; www.maccna.org

3) 14-16 Apr; Hualapai Mountain Campout; Hualapai Mountain Park, Kingman; write: Recovery on the River Group; 35 Acoma S; Suite C; Lake Havasu City, AZ 86403

California 17-19 Feb; Central California Regional Convention 25; Bakersfield Marriott-Rabobank Arena, Bakersfield; www.cceinc.org/

2) 13-16 Apr; Northern California Convention 39; Sacramento Convention Center, Sacramento; <http://norcalna.org>

3) 14-16 Apr; San Diego/Imperial Counties Regional Convention 32; Hilton San Diego Bayfront, San Diego; www.sandiegona.org

Florida 17-19 Mar; Women Stand United With Hope Spiritual Retreat 12; Cedar Kirk Retreat Center, Lithia; write: Women's Hope Group; Box 8121; Tampa FL

Georgia 3-5 Mar; Recovery in Action Newcomer's Event 3; write: Kickin' It Clean Group; Box 5216; Savannah, GA 31414

2) 23-26 Mar; Georgia Regional Convention 36; Columbus Convention & Trade Center, Columbus; www.grcna.org

Hawaii 7-9 Apr; Oahu Fellowship Gathering 33; Camp Mokuleia, Waiialua; <http://na-hawaii.org/na-hawaii/gatherings/>

Illinois 17-19 Feb; Circle of Sisters Convention 20; Chicago Marriott Hotel, Chicago; www.circleofsisters.org

Kentucky 14-16 Apr; Kentuckiana Regional Convention 31; Holiday Inn University Plaza, Bowling Green; www.krscna.org

Massachusetts 3-5 Mar; New England Regional Convention 17; Sturbridge Host Hotel & Conference Center, Sturbridge; www.nerna.org/events/other/nerc-xvii-registration

Michigan 13-16 Apr; Detroit Area Convention 25; Marriott Hotel, Detroit; www.michigan-na.org/metro_detroit_region

Minnesota 31 Mar-2 Apr; Minnesota Convention 24; City Center Hotel, Mankato; www.naminnesota.org/mnnac

New York 3-5 Feb; In the Spirit of Love 29; Holiday Inn, Waterloo; www.flana.net

2) 17-19 Feb; Metro Area de Habla Hispana Convention; Crowne Plaza, White Plains; write: Metro Area de Habla Hispana; Box 734; New York, NY 10116

3) 23-26 Feb; Rochester Area Convention 23; Radisson Hotel, Rochester; <http://rochesterny-na.org>

North Carolina 24-26 Feb; Freedom by the Sea Convention 16; Sea Trails Golf Resort & Convention Center, Sunset Beach; www.freedombytheseaconventionofna.com

2) 7-9 Apr; Central Piedmont Area Convention; Cabarrus Arena, Concord; www.crna.org/

Pennsylvania 3-5 Feb; Bucks County Area Convention 10; Sheraton Bucks County, Langhorne; www.buckscountyareaconvention.org

2) 10-12 Mar; Capital Area Convention 15; Sheraton Bucks County, Langhorne; www.capitalareaofna.org

South Carolina 10-12 Mar; First Stay, Pray & Live Convention; Gateway Conference Center, Richburg; write: Keep It Simple Area; Box 12279; Rock Hill, SC 29731-2279

Texas 13-16 Apr; Lone Star Regional Convention 32; Hilton DFW Lakes, Grapevine; www.lsrso.com

Virginia 3-5 Mar; Tidewater Area Convention 16; Norfolk Waterside Marriott, Norfolk; www.tidewaterareana.org/tacna-xvi.html

Washington 9-12 Mar; Clean & Free; Ocean Shores Convention Center, Ocean Shores; www.wnirna.org/

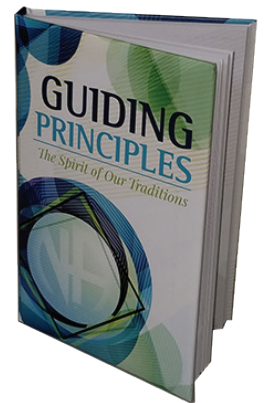
Wisconsin 3-5 Feb; Greater Milwaukee Unity Convention 20; Hyatt Regency Milwaukee Hotel, Milwaukee; namilwaukee.org/

Wyoming 31 Mar-2 Apr; Southern Idaho Regional Convention 28; Virginian Inn, Jackson Hole; www.sirna.org/

NAWS Product Update

Guiding Principles: The Spirit of Our Traditions

Hand-numbered Special Edition limited to 7,500 copies
 Features decorative inside cover, Japanese paper, and full-color chapter starts.
 A shimmering varnish finish and an "epoxy dome" medallion decorate the textured cover.
 Includes a coordinating debossed leatherette bookmark.
 Item No. 1205 Price US \$30.00/26.50 €



2017 JFT Calendar

Get your daily recovery inspiration and encouragement
 with excerpts from our *Just for Today* book. 4.25" x 5.25"
 tear-off pages with easel.
 Item No. 9500 Price US \$11.75/10.40 €

NA and Persons Receiving Medication-Assisted Treatment

This World Board-approved pamphlet is
 intended for professionals who prescribe medication
 to treat drug addiction.
 Item No. 2306 Price US \$0.30/0.27 €



Arabic

The NA Step Working Guides
 زمالة المدمنين المجهولين دليل العمل بالخطوات
 Item No. AR-1400 Price US \$8.50/7.50 €



Hebrew



היכרות עם פגישות אנ-איי
 Item No. HE-3129 Price US \$0.24/0.21 €

Keychain Medallion Holder

This holder is etched with *share, just for today, gratitude, it works,* and the NA service symbol. The perfect pairing for your bronze or triplate medallion. It is available in bronze, satin gold, or black plating.
 Item No. 6091 thru 6093
 Price US \$8.00/7.10 €



NA: A Resource in Your Community
 (2016 Versions)
Una risorsa nella società
 Item No. IT-1604 Price US \$0.40/0.37 €

Italian

Japanese
 スポンサーシップ

Item No. JP-3111 Price US \$0.24/0.21 €



Latvian

*Kāda atkarīgā pieredze ar pieņemšanu,
ticību un apņemšanos*

Item No. LV-3114 Price US \$0.24/0.21 €

Kā saglabāt tīrību "ārpusē"

Item No. LV-3123 Price US \$0.24/0.21 €

Mizo

Keytags (Welcome to Multi-Year)

Item No. MZ-4100 thru 4108 Price US \$0.53/0.47 €



Polish

*The NA Step Working Guides
Anonimowi Narkomani
Przewodnik do pracy
nad Krokami*

Item No. PL-1400
Price US \$8.50/7.50 €



Inne spojrzenie

Item No. PL-3105 Price US \$0.24/0.21 €

Informacja Publiczna (PI) a członek NA

Item No. PL-3115 Price US \$0.24/0.21 €

Szpital, instytucje i członek NA

Item No. PL-3120 Price US \$0.24/0.21 €

**Pieniądze mają znaczenie
Samowystarczalność w NA**

Item No. PL-3124 Price US \$0.35/0.31 €

**Dla rodziców lub opiekunów
młodych członków NA**

Item No. PL-3127 Price US \$0.31/0.26 €

Odia

Keytags (Welcome to Multi-Year)

Item No. OR-4100 thru 4108 Price US \$0.53/0.47 €



Portuguese (Brazil)

Pesquisa de participação de membros

Item No. ZPRPB1001 Price US \$0.30/0.27 €

German

Mitgliederbefragung

Item No. ZPRGE1001 Price US \$0.30/0.27 €

Informationen über NA

Item No. ZPRGE1002 Price US \$0.30/0.27 €

Greek

Πληροφορίες για το NA

Item No. ZPRGR1001 Price US \$0.30/0.27 €

Ukrainian

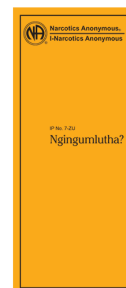
Прийняття себе

Item No. UA-3119 Price US \$0.24/0.21 €

Zulu

Ngingumlutha?

Item No. ZU-3107 Price US \$0.24/0.21 €





Coming Soon

Hungarian

The NA Step Working Guides

A Narcotics Anonymous Munkafüzete A Lépésekhez

Item No. HU-1400 Price US \$8.50/7.50 €

Portuguese

Sixth Edition Basic Text

Narcóticos Anónimos

Item No. PO-1101 Price US \$11.55/10.00 €

